

学生が行く！ 土木のお仕事

山下優輔 学生編集委員

相沢圭俊 学生編集委員

第10回 【神奈川県】 横浜港（人物編）

港湾を支える土木技術者の想い

〔取材協力者〕 厨川 研二氏 横浜市港湾局企画調整課 課長

御沓 英剛氏 東亜建設工業（株）横浜営業所 所長

今回は横浜港が国際競争に打ち勝つためのプロジェクトを紹介したが、港湾を支える土木のお仕事はそれだけに留まらない。今回は、日本の拠点港湾の一つである横浜港をさまざまな角度から整備する土木技術者を紹介。横浜港に携わる横浜市港湾局の厨川氏と、東亜建設工業の御沓氏に「港湾土木のお仕事の魅力」を伺った。

——まず初めに、それぞれの立場からどのように横浜港の整備に携わっているのか教えてください。

御沓——私は、国内最大の水深のコンテナターミナルとなる横浜港南本牧地区の建設を長年担当してきました。その中でも外周護岸やコンテナクレーン基礎の上部工、耐震補強工事等、日本初の取り組みもある非常に大がかりな工事を担当してきました。現在は営業所で施工検討や施工支援技術営業など、現場のバックアップを行っています。

厨川——横浜市港湾局は、横浜港に

関する計画・整備・管理・運営といった業務全般の調整役を担っています。私は今まで横浜港の建設にかかわる設計・監督や事業推進、維持管理・修繕、港湾計画策定などを行ってきました。現在は、国際港湾である横浜港の港湾計画改訂作業を管理者であるわれわれ地方自治体が主体となって進めているところです。

——港湾の整備に携わる中で苦労した経験はありますか。

厨川——行政は非常に多くの方々と連携します。工事を円滑に進める上では、国の関係機関や発注先の建設



写真1 厨川氏（中央右）と御沓氏（中央左）

会社、設計するコンサルタントとの調整をはじめ、横浜港を運営する埠頭株式会社や埠頭の利用者、水域の利用者など多様な関係者との調整が必要です。また、港湾計画を策定する場合にも、港湾関係者や市民、学識経験者、国などと意見交換を行います。将来のあるべき姿を決めていきますので、多岐にわたる調整・連携が欠かせません。そのようなプロセスを経て物流や賑わい、防災、環境などさまざまなテーマについて計画を策定します。とても苦労しますが、計画が策定された後の達成感を皆と共有す



写真2 横浜港の航空写真

KURIYAGAWA Kenji

1961年東京都生まれ。1983年山梨大学土木工学科を卒業後、横浜市入庁。建設事務所、設計課、企画調整課、維持課、南本牧事業推進課のほか、海外の港湾開発支援に携わる国際臨海開発研究センター（OCDI）への派遣などを経て、現職。



MIKUTSU Hidetaka

1967年大分県生まれ。1988年大分工業高等専門学校土木工学科を卒業後、東亜建設工業入社。大阪支店、横浜支店を経て、現職。横浜港南本牧コンテナターミナルの建設では、海上工事全般の施工を担当した。



る時は、やって良かったと思えますね。

御香——海上の土木工事で一番苦労するのは気象・海象条件です。海上の天候は陸上と違い、急変しやすく、最近では爆弾低気圧などが短時間で急速に発達することもあります。安全のために工事を中断し、早めに船舶を避難させなければならず、全体的な工程にも影響を及ぼすため、遅れを取り戻すことにも苦労します。また、現在建設中の南本牧コンテナターミナルは、対岸の岸壁が供用中のため、航行・停泊中の船舶に注意しながら施工を行うのは大変ですね。

——港湾だからこそ「土木の仕事」の面白さがありますでしょうか。

御香——海上工事は周辺環境によって工法が変わるのですが、気象・海象は地域ごとに異なります。東京湾でも外洋と内洋では波の高さなどまったく違います。そのため、海上工事は難しいのですが、逆にそれが面白さでもありますね。また、港湾の整備を行う際、直接海の中は見えませんが、港湾の建設が大規模になる中、海の中が見えなくても安全にしっかりと施工できるシステムを考えるのは、

港湾土木ならではの面白さです。

厨川——港湾独特の事業として、埋め立てにより新たな土地をつくる。ことが挙げられます。埋め立てた土地をどのように利用し整備するかを考える。それに加え、周りの道路や橋梁などのインフラも港湾とセットで考えることができるのは大きな魅力だと感じます。また、港は物流だけでなく、賑わいづくりに貢献しています。市民から見ると、横浜港は物流よりもみなとみらい地区などの賑わいをイメージされると思います。臨港パーク、大さん橋などの整備により、土木技術者として賑わいを演出する仕事ができることも面白さの一つです。

——最後に、読者の学生へメッセージをお願いします。

厨川——私は横浜港を物流の面でも賑わいの面でも日本一の港にしたいと思っています。港湾の発展を考えると、海運動向や物流動向を的確にとらえなければなりません。横浜港でも国内初のマイナス16m大水深岸壁が完成した時には、さらに大型の船が造船されていたこともありました。港は競争力が大事なので、先

取材を終えて

「港湾」という巨大な社会基盤は、多くの土木技術者がさまざまな方向からアプローチして成り立っていることが印象的だった。土地土地の環境に対応しながら一つの大きな構造物を協力・連携しながらつくり、その喜びを分かち合う。そんな土木の世界に、改めて魅力を感じた取材であった。

見性や幅広い視野を必要としますが、大きな目標に向かってさまざまな経験ができるのは、土木行政の魅力です。

御香——土木建築のものづくりは一人ではできません。発注者、設計者、現場などが一緒に知恵を絞り、汗をかき、苦労を分かち合っているのができるものです。場合によって数年間の工期を要するものもあります。苦労を重ねた分その喜びはひとしおです。また、地図に残る仕事ができるということは非常にやりがいがあります。土木事業を取り組んでいく中で、苦労するということはプラスになることを身を感じながら、土木工学を専攻していただけたらと思います。